報道資料

彦根市
Hikone City

令和 5 年（2023 年）6 月 15 日

名勝玄宮楽々園内「御書院」内部を特別公開します

楽々園は、彦根城天守の北側にあり、4 代当主井伊直興により延宝 5 年（1677）から 2 年を要して造営された彦根藩の下屋敷です。11 代直中の隠居に際して大規模な増改築が行われ、全盛期を迎えましたが、その後は縮小傾向に転じ、現在に至っています。

建物は「御書院」、「地震の間」、「楽々の間」等の建物で構成され、「御書院」の奥は渓谷の風情をなしており、「地震の間」、「雷の間」、「楽々の間」へと連なっています。「楽々の間」は、12 代直亮により増築されたもので、「楽々園」の名の由来ともなった建物です。ただ、「楽々園」と呼ばれるようになるのは明治時代以降のことで、江戸時代には、「槻御殿」、「黒門外御屋敷」などと呼ばれていました。

建物の老朽化が進んできたことから、平成 17 年度から楽々園保存整備事業に着手し、平成 24 年度には御書院の全解体修理が完了しました。

つきましては、全体整備の途中ではありますが、これまで整備してきました玄関、御書院の内部を市民の方々にご覧いただけるよう下記のとおり特別に公開するものです。

1　日　時　令和 5 年 7 月 1 日（土）～7 月 7 日（金）
令和 5 年 7 月 22 日（土）～7 月 23 日（日）公開期間中無休
午前 9 時～午後 5 時（入場締切　午後 4 時 30 分）

2　場　所　彦根市金亀町（名勝玄宮楽々園内楽々園）

3　定　員　随時公開ですが、人数制限をする場合があります。

4　料　金　無料

5　その他　期間中は随時見学していただけます。
駐車場は、城内有料観光駐車場を利用ください。
園内での喫煙・飲食・火気使用は禁止です。
飼い犬・飼い猫等は、建物内は入場不可です。
楽々園内に便所はありません。

6　備　考　昨年度の特別公開の開催結果
開催期間　令和 4 年 7 月 2 日（土）～7 月 10 日（日）
入場者数　1,698 人

なお、7 月 22 日（土）には、彦根城博物館で楽々園にかかわる講座「大殿様井伊直中と槻御殿」が行われます（定員 50 人）。詳しくは別紙をご参照ください。

【お問い合わせ先】
彦根市観光文化戦略部文化財課
担当：岡、大橋
TEL：0749-26-5833　FAX：0749-26-5899
E-mail：bunkazai@mx.hikone.ed.jp

楽々園建造物御書院　外観

楽々園建造物御書院　内観

別紙

報道資料

彦根市
Hikone City

令和５年５月９日

令和５年度 彦根城博物館学芸員による講座を開催します

彦根城博物館の学芸員は、各自の研究テーマや担当する展示について、調査・研究を行っています。その成果や最新の知見を市民に直接伝える場として講座を開催します。これにより、当館の活動や所蔵資料、さらには日本の歴史や美術にも関心を持ってもらおうとするものです。

今年度は、下記の通り開催いたしますのでお知らせいたします。

つきましては、広報についてご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。

記

1　開催日・演題および内容・講師

別紙のとおり

2　開催時間

午後２時～午後３時30分

3　会場・費用など

会場：彦根城博物館(彦根市金亀町１番１号)講堂

定員：各回50名

資料代：各100円(彦根市内の中学生以下は無料)

受付：当日先着順(午後１時30分より受付開始)

4　その他

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、講座の開催を変更する場合があります。

問い合わせ先
彦根城博物館 学芸史料課 柴﨑
TEL:0749-22-6100

令和5年度彦根城博物館学芸員による講座・講演会の開催日・演題および内容・講師

	開催日	演題および内容	講師
①	令和5年 6月3日(土)	私の研究最前線 **「菊満香―琳派に魅せられた幕末の女性画家―」** 幕末期、近江国の湖東・湖北地方を舞台に、菊の絵をよく描いた「菊満香(万香)」と称される女性がいました。謎に包まれた満香について、現時点で分かったことを紹介します。	髙木 文恵
②	令和5年 7月22日(土)	私の研究最前線 **「大殿様井伊直中と槻御殿」** 文化9年(1812)に隠居した11代直中は、20年近く、彦根の槻御殿で暮らしました。当時の直中の活動や、子の直弼ら周りの人びととの関係など、その暮らしぶりを紹介します。	渡辺 恒一
③	令和5年 8月19日(土)	企画展「仰ぎて天文を見る」関連講演会 **「江戸時代における天文の理解について」** 江戸時代の人々は天文現象をどのように理解していたのでしょうか。著書で天体の運動を論じた国学者長野義言など彦根ゆかりの人物の事例もあわせて紹介します。	荒田 雄市
④	令和5年 8月26日(土)	私の研究最前線 **「彦根城下のなかの足軽」** 彦根藩では1000人を超える足軽を37組に編成し、城下の善利橋などに集住させました。本講では、新出資料をもとに各組の居住分布を復元し、彦根城下と足軽組の関係に迫ります。	北野 智也
⑤	令和5年 9月16日(土)	企画展「関東大震災から100年 災害と井伊家伝来資料」関連講演会 **「災害と井伊家伝来資料」** 井伊家伝来の美術品と古文書は、明治29年(1896)の琵琶湖大水害や大正12年(1923)の関東大震災によって甚大な被害を蒙りました。これら被害の実態を、罹災資料を紹介しながら改めて振り返ります。	茨木 恵美
⑥	令和6年 1月13日(土)	私の研究最前線 **「彦根藩領の湊と船―船役所の機能を中心に―」** 彦根藩船役所は藩領内の湊や船、漁業などの支配に当たっていました。その職掌・機能や湊の様相について、水主小頭であった磯崎家に伝わった古文書などから考えます。	荒田 雄市
⑦	令和6年 2月24日(土)	私の研究最前線 **「石黒務―明治に活躍した旧彦根藩士―」** 明治期に福井県知事等の地方官僚を勤めた石黒務(1840～1906)は、他方では井伊家等に関わる資料の収集・考察をしていました。その足跡をさまざまなところに残す彼の人物像を紹介します。	早川 駿治
⑧	令和6年 3月9日(土)	私の研究最前線 **「「暮物伺」から見た彦根藩武家奉公人の実像」** 彦根藩各役所の武家奉公人の昇給は、年末に目付から藩主に提出された「暮物伺」という書類をもとに実施されました。この人事手続に見える彼らの実像を紹介します。	柴崎 謙信
⑨	令和6年 3月16日(土)	私の研究最前線 **「井伊直忠の能稽古と梅若家」** 井伊家15代直忠(1881～1947)は、観世流の梅若万三郎らに師事し、その生涯を能に捧げた人物です。直忠が実際にどのように稽古を行っていたのかを、梅若家との書簡などから探ります。	茨木 恵美